

# 埼玉県立循環器・呼吸器病センターだより

発行：埼玉県立循環器・呼吸器病センター（地域医療連携室）  
〒360-0197  
埼玉県熊谷市板井1696 電話048-536-9900

## 【就任のごあいさつ】

平成30年4月1日より感染症対策部長を拝命いたしました。  
昭和62年に金沢大学を卒業し、喘息、COPD、呼吸器内科一般診療に携わってまいりました。

18年前の当センター就職時には喘息発作による救急受診が数多くみられましたが、喘息教室、COPD教室を立ち上げ、外来看護部門による生活指導もあり、日本呼吸器学会シンポジウムの企画で行った「埼玉県内呼吸器診療アンケート調査」では当センター周辺地域での喘息救急受診が県内で最も少ないことが判明いたしました。また2年前より呼吸器内科高久先生、薬剤部杉田主任、地域薬剤師会の方々と共に熊谷吸入療法連携会を発足させて、地域の医療機関で処方された吸入薬のチェックと指導が正しく行われるような連携活動を始めています。また今年7月から当センターにて禁煙外来を新しくスタートさせました。



感染症に関しては、当センターでは平成29年の新棟オープンに伴い、21床の感染症用個室が整備されました。2類感染症の受け入れ態勢を整えると共に、これまでできなかった透析中の結核患者の受け入れも看護スタッフ研修を経て今年7月から可能となっています。

肺炎に関しては高柳呼吸器内科科長の下で、これまで多くの英文論文や研究発表が当院から出されていると共に、肺炎入院時の死亡率は全国平均を下回っています。また当院のICT（感染対策チーム）には検査技術部の吉岡副部長、医療安全管理室の大沢主任、薬剤部の仙波技師など優秀なスタッフが在籍し Antimicrobial stewardship（抗菌薬適正使用支援）を行っています。

喘息、COPD、感染症などの分野においても他の分野と同様、患者指導、チーム医療の重要性がより高まっていますが、埼玉県立循環器・呼吸器病センターの一員として今後とも頑張っていきたいと思っております。これからも ICT とともに宜しく願いいたします。

感染症対策部長 倉島一喜

## 病診連携会を開催しました！

10月3日（水）に熊谷市のホテルガーデンパレスで当センター主催による病診連携会を開催しました。

当日は、医師会様58名、当センター40名、合計98名の方にご参加いただきました。当センター心臓外科中村医師が「循環器急性期疾患への取組み」について講演を行いました。情報交換会においても活発な意見交換が行われ、大盛況となりました。ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。



## 気管支喘息の診療 ～当センターにおける喘息診療～

### 【はじめに】

呼吸器内科医長 高久 洋太郎

気管支喘息（喘息：ぜんそく）は、空気の通り道（気道）に持続的な炎症が発生し、様々な刺激に気道が敏感に反応して発作的に気道が狭くなり、呼吸の際にヒューヒュー、ゼーゼーと鳴る「喘鳴（ぜんめい）」が現れる疾患です。症状として発作的な咳や呼吸困難がみられ、吐き出しにくい粘度の高い痰も発生します。粘度の高い痰による窒息死（喘息死）も起こりうるため、適切な治療を早期から行う必要があります。

かつて、気管支喘息は特殊な家系や公害地域の現象とされてきました。しかし、近年では、日本全国で調査を繰り返す度に喘息は増加し続け、推定患者数 400 万人のものはや国民病ともいえる状況です。幸いにして治療技術も進歩したため、きちんと管理すれば喘息は恐れる必要のない疾患となりました。多くの喘息患者さんは、治療を受けることでほぼ無症状となるのが可能で、病状の悪化（喘息発作）で入院するのはもはや昔話となっています。それでも喘息を治癒せしめる（治療を終了する）ことは、軽症な喘息患者さんであっても極めて困難です。また、多種複数の喘息治療薬を併用してもなお病状コントロール不良な重症喘息患者さんが、全喘息患者さんの 5%程度（数万人程度）はいらっしゃいます。



当センターでは、こうした ①軽症喘息患者さんの治癒への挑戦 ②重症喘息患者さんの病状克服 それぞれに積極的に取り組んでいます。具体的には、重症度に応じた一般的治療のみならず、軽症～中等症喘息患者さんへはアレルギー免疫療法、重症喘息患者さんへは各種生物学的製剤/気管支サーモプラスチック（気管支熱形成術）による専門的治療に取り組んでいます。

### 【軽症～中等症喘息患者さんへのアレルギー免疫療法】

アレルギー免疫療法は、我が国ではかつて減感作療法と呼ばれていました。アレルギー性疾患の病因アレルゲンを漸増しながら生体内に投与してゆくことで、アレルゲンに対する免疫反応を修飾（軽減）する治療法です。アレルギー病態へ直接的に介入するため、アレルギー疾患における根本的治療法と位置づけられます。

喘息で最も頻度の高い原因アレルゲンは、室内塵中のダニです。ダニ免疫療法は、ダニが原因の気管支喘息及びアレルギー性鼻炎で効果があることがわかっています。通年性の鼻炎があり、加えて喘息が合併しているような場合、両者に対する“一石二鳥”の体質改善効果が期待できます。また、花粉症に対しては、スギ・アレルギー免疫療法が有効です。通年性鼻炎や花粉症は、喘息を悪化させることが知られています。ダニまたはダニ＋スギで免疫療法を行うことで、喘息と鼻炎の両者（及び鼻炎に伴う喘息悪化）を治療することができます。当センターは、北埼玉地域で唯一の呼吸器・アレルギー専門医による気管支喘息へのアレルギー免疫療法実施可能施設となっています。表 1 に示す患者さんを主たる対象に、積極的にダニ・スギによるアレルギー免疫療法を導入しています。

### 【重症喘息患者さんへの生物学的製剤/気管支サーモプラスチック（気管支熱形成術）】

当センターでは、重症喘息患者さんに対する専門的治療として、生物学的製剤による治療や気管支サーモプラスチック（気管支熱形成術）を進めています。

喘息における生物学的製剤は 2009 年から使用されており、分子標的薬としてヒト化抗ヒト IgE モノクローナル抗体製剤「抗 IgE：オマリズマブ（ゾレア®）」が最初に使用されるように  
(次ページへつづく)

なりました。その後、メボリズマブ（ヌーカラ®）、ベンラリズマブ（ファセンラ®）といった体内におけるインターロイキン-5の作用を阻害する製剤も登場しました。今後も、ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体抗体デュピルマブなどが新規上市される見込みです。当センターでは、患者さん個人個人の喘息の病態を見極めた上で、適宜適切にこれら生物学的製剤を用いた治療を進め、病状を改善しています。

重症喘息患者さんに特徴的な気管支平滑筋の異常な肥厚を治療標的とした治療、気管支サーモプラスチック（気管支熱形成術）も実施可能です。気管支内視鏡を用いて、平滑筋の異常な肥厚から細くなった気管支にアプローチし、熱をかけることで平滑筋量を減らす治療法です。当治療法は、喘息に関する十分な知識と経験を有する専門医により施行される必要がありますが、当センターは全国的にも限られた実施可能施設の一つとなっています。

**【包括的な取り組み】**

当センターでは、これまでに述べた以外にも、喘息患者さんを対象とした定期的な喘息教室の開催、喫煙者に対する薬物を用いた禁煙治療（禁煙外来）、熊谷吸入療法連携会（<http://kumagaya-ph.or.jp/renkei/main.html>）を介した医療者への喘息治療に関する教育、など喘息診療全体に包括的に取り組んでいます。これからも、喘息治療における高度・専門診療を担いつつ、各種医療機関とも円滑な連携を図り、県民の皆様を高水準の喘息診療を提供できる様進めてまいります。

（表1）

**アレルギー免疫療法の適応となる患者さん**

**病歴・皮膚反応・IgE抗体から**

**当該アレルギーの関与が明確な患者さんのうち**

- \*1秒量予測値が70%以上（重症ではない）**
- \*アレルギー回避と薬物療法でも  
症状を十分にコントロールできない**
- \*鼻炎を合併している**
- \*長期の薬物療法を望まない**
- \*副作用により薬物療法継続が困難**

**出張いきいき健康塾を開催しました！**

9月13日（木）に鴻巣市の箕田公民館にて出張いきいき健康塾を開催しました。

テーマは「意外な症状の循環器疾患」でした。演者は心臓外科中村医長が行いました。

当日は、32名の方にご参加いただきました。

次回の中村医長による講演は、11月22日（木）寄居町保健福祉総合センターにて開催します。皆様のご参加をお待ちしています。



平成30年11月1日現在

外来診療スケジュール

診療科	診察室	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
循環器内科	本館棟①				石丸 安明						
	本館棟⑤	肺血管外来		藤原 堅祐	藤原 堅祐			河邊 篤彦	心臓サルコイドーシス (第2週)		
	本館棟⑥	野村 充希		中島 崇智	中島 崇智	奥山 虎章	利根川玲奈	利根川玲奈	松尾 圭祐		
	本館棟⑦	村上 彰通		武藤 誠	武藤 誠	鈴木 輝彦	鈴木 輝彦	工藤 雅人	工藤 雅人	藤井 真也	藤井 真也
	本館棟⑧	宮本 敬史		弁膜症外来	弁膜症外来	永吉 信哉	永吉 信哉	ペースメーカー (第5週休診)	ペースメーカー (第5週休診)	宇野 剛輝	宇野 剛輝
	本館棟⑨	前原 智紀				今井 忍				下肢血管外来	
循環器小児科	本館棟②					菱谷 隆 (原則第1・3週)					
腎臓内科	本館棟①										
	本館棟②		小川 公己					佐野 達郎			
心臓外科	本館棟①	小野口 勝久 (第1週のみ)		織井 恒安 (再診)	織井 恒安					織井 恒安 (再診)	
	本館棟②			花井 信	花井 信						
	本館棟③	織井 恒安 (再診)			織井 恒安 (再診)					中村 賢 (第5週休診)	
	本館棟⑤									阿部 貴行	阿部 貴行
	本館棟①										
血管外科	本館棟②	院外紹介 (8:30~9:00)						院外紹介 (8:30~9:00)		院外紹介(8:30~9:00) 百川 文雄(第1・3・5週) 閉塞性動脈硬化症・静脈瘤(第2週)(第4週・午前)	
	本館棟③										
脳神経外科	新館棟⑦	伏原 豪司									
	新館棟⑧	埼玉医大 脳卒中外科医師						埼玉医大 脳卒中外科医師			
	新館棟⑩	倉島 一喜		倉島 一喜	倉島 一喜			細田 千晶			
	新館棟⑪	細田 千晶		鎌山 奈保	鎌山 奈保			高柳 昇			
	新館棟⑫	石黒 卓		柳澤 勉	柳澤 勉			石黒 卓			
	新館棟⑬	高久洋太郎		小林 洋一	小林 洋一			高久洋太郎			
	新館棟⑭			秋山 勇人	秋山 勇人			古部 暖			
	新館棟⑲							黒澤 永 (初診)			
	新館棟①	星 永進		高橋 伸政	高橋 伸政			池谷 明彦			
	新館棟②	揖斐 孝之									
消化器外科	新館棟③	神山 陽一						豊増 嘉高			
	リハビリテーション科	洲川 明久						洲川 明久			
放射線科	RI・ニアック棟	叶内 哲									
	RI・ニアック棟	松本 寛子						松本 寛子			

※当院は、紹介制・予約制の医療機関です。初診の方は、紹介状が必要です。かかりつけ医等に  
ご相談いただき紹介状を入手してから、事前の予約(予約専用電話)をお願いいたします。  
※初診の方は、上記スケジュールにのみならず、原則として11時までには受付してください。  
ただし、血管外科の「院外紹介(8:30~9:00)」は、必ず8時15分までに受付してください。  
また、放射線科は、月曜・水曜の午後のみ受け付けます。

埼玉県立循環器・呼吸器病センター  
住所 〒360-0197 熊谷市坂井1696  
TEL 048-536-9900(代表)

◎ 予約専用電話 048-536-9911  
受付 月～金曜日 8:30～17:00  
\*翌日分の予約は16時まで